

瀋陽駐在員事務所

瀋陽で奮闘する学生達



学生食堂の様子



図書館の様子

先日、当地瀋陽で活躍する学生達を目にする機会がありました。行った先は、50年余りの歴史を持つ遼寧大学。世界各地の50か国以上の国から700人あまりの留学生を受け入れる当地でも最大規模の大学で、東北という土地柄、ロシア人や韓国人が多く在籍していますが、特に印象的だったのは図書館です。每期期初に学生達による机の「陣取り合戦」が始まり、建物内の自習室はさながら各自の学習机と化します。机に各自の教科書を並べ熱心に勉強している学生達をみて、この国の激しい競争（学歴社会）に大いに刺激を受ける場面です。

学生達の旺盛な食欲を満たす食堂も充実しています。キャンパス内に複数存在する食堂のお昼時の混雑ぶりは、サークル関係者がたむろする日本の大学とは一味違った雰囲気です。中華、韓国、西洋料理が中心で価格は@5~10円ほど。日本円で@65~130円でお腹いっぱい食べることが出来ます。付近の中国人学生との会話で「外国人から見れば安いかもしれないけど、僕達にとってはそんなに安くはないですよ」と、教科書を片手に食事をとっている学生達の目は真剣で希望に満ちていました。

日本から来た多くの学生は、そんな中国の学生達との交流を通じ、日々たくさんの事を学んでいます。いろいろと波風が立つ日中関係ですが、これからの時代を背負って行く若い世代に大いに期待したいと思います。

渋川 隆彦

(財)日中経済協会北京事務所 札幌経済交流室

中国の贈答品事情



月餅(ケースも豪華)



一般的な月餅

中国では、日本の「お歳暮」「お中元」の様に、贈答品を送る機会が多々あります。直近では、お世話になっている先生に、生徒が贈答品を贈る「教師節」がありました。一般的には花を贈りますが、決まりは無く、時計等の高価なものを贈るケースもあり、iPadが発売された年は、iPadを4つもらった人気教師もいたそうです。

また、最も有名なのが、「中秋節」です。時期は毎年異なりますが、9月下旬から10月上旬が一般的で、基本的には「月餅(げっぺい)」という中国菓子的一种を、親しい方やお世話になった方へ贈ります。

面子(メンツ)を重視する中国では、贈答品にお金を掛ける風習が有り、お菓子メーカーやホテル等は、「中秋節」に合わせて自社オリジナルの月餅を製造・販売し、贈答品市場の獲得に励んでいます(最近では、ハーゲンダッツの「アイスマン」も人気)。

また、一般的な月餅の他に、金箔を貼ったものや、月餅と一緒に時計やワインを箱に詰めて送るなど多種多様となっております。しかし、これが賄賂として贈られるケースもあり、問題視した中国政府は、月餅の包装や、詰め合わせたものの価値が、月餅そのものの価格の20%を越えてはならないという法律を制定しました。

小職としましては、上記賄賂の問題よりも、未だに家に大量に有る月餅をどう処分すべきかの方が深刻な問題となっております・・・。

佐藤 孝太郎

ユジノサハリンスク駐在員事務所

ニューフェイス登場



マリアさん



所長とマリアのツーショット

今年 10 月から新しく職員として採用されたヤロヴェンコ・マリアさんをご紹介します。

「今年 7 月にサハリン国立総合大学（経済東洋学）を卒業しました。在学中は日本語学科を専攻し、日本の文化・歴史・文学などを学びました。日本文学で一番好きな作家は三島由紀夫と川端康成です。子供のときから外国語に興味があり、初めて日本語を覚えたのは 8 歳のときに、近所に住む女子大生から日本語を教わったことがきっかけでした。

そのときに覚えた単語は「父（ちち）」と「母（はは）」でした。

北海道銀行での主な仕事は通訳と翻訳です。最初は難しく、分からないことも沢山ありましたが、所長も同僚も優しく、いろいろなことを教えてもらい、徐々に慣れてきたところです。今の仕事は日本語の勉強だけではなく、様々な分野に関する知識も習得出来ますので、とても面白く楽しいです。これまで日本へは大学の時に一ヶ月間だけ友達と大阪に行き、勉強や遊びを通じていろいろなことを学びました。是非もう一度（実は何度も！）日本へ行きたいと思っています。これからもよろしくお願い致します。」

このように日本が大好きなロシア人とめぐり会って一緒に仕事をする事が出来て、とても光栄です。私も新人に戻ったつもりでロシア語を勉強し、様々な知識を身に付けたいと思っています。マリアさん、一緒に頑張りましょう。

三上 訓人